



大正三年六月廿三日印刷  
大正三年六月廿五日發行

【定價三錢】

長野縣四筑摩郡福嶋町四〇四番地  
編纂兼發行人 安井正夫  
長野市縣町中三番地  
印刷者 田中彌助  
長野市四后町乙廿一番地  
印刷所 長野新聞社活版部  
長野縣四筑摩郡福嶋町二八九番地  
發行所 蘆澤書店

岐蘇林友

第五十六號目次

講演、高山植物に就て  
河野上伊那農學校長  
寄宿舎便り  
研究、果樹園設計 甲州竹の今昔  
臺灣北部に於ける想思樹に就て  
通信、山林學校便り 行程一千日  
文苑、史都めぐり 和歌  
雜報、片々

高山植物に就き

上伊那農學校長 河野齡藏先生述

本講演は去る五月二十九日、河野先生の本校に立寄り、れし際講演せられし處の大意を筆記せしもの也、文責本より記者にあり(矢島、加藤筆記)

私は只今御紹介に預りました河野と云ふものでございます御新築以來始めて拜見した次第でございます何か話せとのことではありませんが別に腹案も材料もありませんが花つての事故御話しに及ぶ次第であります、先刻伺ひますれば登山と云ふ年中行事をせらるゝこの事故高山植物についてその生態分布等の夫体について申上りたいと思ひます、高山植物と云ふ口に申しますけれども其意

講演

義は一定して居らぬので人に依て色々意見が違ふ様でありますが我々は頂上に近い所謂草木帯以上のものを申したいのであります草木帯以下のものは準高山植物とでも申したいものと思ひます西洋あたりでもうなつて居る様であります、其植物の性態及び其所在は日光水分砂礫の量の多少により或は肥沃の如何等により異つて居ります乾性植物は最も高山的でありまして其特殊の點は莖や葉が普通植物に比し割合に小さくあります一例を申せばみやまらんどろなどは一尺位の根に地上の部分は漸く三乃至五分位で複葉小草でありますから葉は極めて小さく莖は軽く根は太くて深いのであります或はたかねたんぼは地中の部分が二尺五寸位であるのに地上の部分は極めて小さいのであります、すべてが莖葉小さい其理由は乾燥に耐ゆるのであります即ち蒸發

を減する爲め莖葉の面を小さくするのであります根は深く地中に入り岩の下の様な處にはいりこんで水分を吸ひらうして乾燥に耐へるのであります又風に對抗するの必要があり高山では小石が飛ぶ位ですから其れに抵抗する爲にせいが低く根が太く莖葉が小さくなくてはならぬそれが爲に遂に斯様な形態を來たしたのであります其外に於て日光をさへざる爲に共に毛を持つて居りますみやまらんどろ雪草は高さが二寸位の菊科植物でアルプスにあるエイデルワイスと始ど同じであるが其花は稍大きくてその變形とみてよいが只異なるのは葉にも莖にも又苞にも眞白な毛の如きものがついてゐますこれは日光をさへぎつて蒸發を減するものであります而して高山植物は繁殖機關が極めて發達して花や果實は非常に大きいみやまらんどろは葉は小さくても花は大き



果實も亦大きく一見不恰好であります或は岩枯梗は莖葉は小さいが其先端は非常に大きいこれ等は乾燥植物の特徴であります次に其他の點について述べますれば氣孔は平地の植物に於ては其葉裏にありますが高山植物では葉の面に多いれば同化呼吸の期間即ち夏が少ない故の短い期間六月より七月の間に一年の仕事をしてしまわねばならぬから多くの氣孔を持つのであります又空氣の稀薄な關係もあるものであります高山植物にては寒氣に強き形態がありまして冬芽を苔の中に潜ませるものもありません尚高山植物草本には一年生と云ふものはなく大抵二年生乃至多年生であります何となれば高山の夏は極めて短い間に開花結實するの甚だ困難で二ケ年を要すること丁度平地の冬と云ふ様なものでありますから一年生はほとんどないのであります生態に就ては以上の通りであります高山植物の分布に就いて申しますれば草本帯以上の處は信州では八千尺以上の高山遠く奥羽では四千尺以上千島では平地であります斯くの如く離れた處に同じ植物あります。例へばみやまやまうすぎくそうは月山にあり千嶋ぎきょうは千島にも有ます又歐洲の羽衣草はこの信州の白馬山にもある斯くの如く遠く離れた高山に同一植物があると云ふのはどう云ふ譯かと申しますと低地なれば兎に角移り行く事も出来ませんが高い地にあつては

そうゆきません西洋の學者の説によりますれば水河時代と申して非常に寒い時代がありました地球表面の温度は昔と今とは甚だ違つてゐるので北半球にありても昔の水河時代には今の高山植物が平地にあつたのであります所が地球の表面の温度の變遷の爲にだん／＼暖かくなるに従ひ平地から寒さを追ふて高山に移つたのであります平地には暖帯植物が繁茂して來ました斯様にもとは聯絡して居つたものと想像する事が出来ます一体温度の變化は水河時代から暖き時代になりだん／＼變化したもので例を申しますれば彼の房州の立山に一町五反六畝歩許りの珊瑚礁がありますこれ内地唯一のものでありますその地は今も燻でそれを掘つて珊瑚礁の標本を採集して居ます現に私が先年採集して來たのは小さかつたので今度拾九貫餘りの物を持つて參りました大體珊瑚礁は暖海ならぬは出來ないものでありまして今日房州の海に斯様な珊瑚礁は出來ないが昔此のあたりが暖い海であつた當時に出來たものでありませう斯様な暖寒の變動によつて高山植物もその分布地域を上下したものでありませうこれは地殻の變動によるもので植物もあちこちと移動するのであります同じ高山でも富士山などにははひ松さへありません何となれば彼等は新火山であるからであります信州の火山は多く舊い水河時代の變動により出來た山であ

りますから従つて高山植物が多くありますですから其周圍にある新しい御嶽にでもこの種の植物があります富士山は新しい上にその南方に舊い火山がなく風の便りもありませんからはい松さへないのであります風の關係も大きいものであります故に高山植物は高い山によらず山は低くとも種々の事情により生ずる形や成立や雪の多少から生ずるものであります信州の白馬山はその種類の多いこと日本第一千尺から九千尺までこれらが分布して居りますそれは割合に雪がたぐさんあるから五間以上も積るとあります高山植物の美的觀察をして見ますれば高山植物の美は熱帯植物の濃厚艶麗なるに比し高山植物は落ちついてしつとりしてをうして人に媚ぶる所が無く沈着高尚即ち温雅の美德を備へてゐて色も高尚で幹も莖も小さく花ばかりが大きくて實に引きしまつて居り自ら盆栽に出來て居ります自然の有様を見ると云ふにいはれない趣があります山に於ける自然の有様などは又他に見られない趣があります七月から十月に交代して開く平地の花も又秋の野も美しいが高山のお花鳥は一時に七月の半から一ヶ月中に開花するので同じ花が咲くとしても平地の七八ヶ月振り即ち山は平地の七倍の花を見ることが出来るので千紫萬紅一時に咲き亂るとは實に高山植物に於て味ひ

見ることが出来るのであります土地の景色が壯大な上に面白い形状の岩が又面白く配置せられてゐて一入植物の美をたすけるのであります實に高山植物帯に立てば仙境にあるの思ひがしたりの美しさこそその愛に打たれて神の庭に遊ぶの心地がするのであります。次に高山植物の移植栽培について申します。西洋ではその方法につき中々研究せられてゐますが我國ではまだ少いのであります。すあちらでは大庭園に高山植物園を置き花屋にも高山植物を露くと云ふ有様です。その方法も餘程研究せられてゐます日本ではすく枯らしてしまふやうな始末ですが外國では高山植物の種苗迄も露いでゐるものがあります。日本に於てアルプスの花が欲しいと思へば獨逸の種物屋へ注文して送つて貰ふことが出来ます。昨日も名古屋の種屋に行つて見ましたが高山のものはありません。生活状態や生態を研究して之に適するやうにするのであります。西洋では築山につくつたり石垣の間に栽培して居ります。最も注意すべきことは土質でその要件は水や瓦斯の滯りがなく土質が軟かであり乾燥せず根の伸長するに都合よく要するに砂まじりの軟かいのがよく粘土などはよくないのであります。何となればそれらは水や瓦斯のこり等があつて高山植物の生育に

適せないからであります。先ず普通の土に砂と土とを等分か又は土を一砂を一、五の割合稀れには一と二或は砂ばかり併し普通は壤土一砂一の割合であります。植物園の位置は英國等では日の當るところとあります。私等の経験上日本では朝月が當つて午後二時から三時から日が當らない所かよいのであります。これも土地の氣候や水蒸氣の量などに關係するもので英國などはくらぶべきではありません。其他あまり近くに反射するものがあつてはなりません。だから白いペンキ塗りの建物等があつてはよくありません。岩は水成岩よりも火成岩のやうな水分を吸収するものがよい。精密に考ふれば岩も土も花崗岩質のものがよく又石灰岩も時に必要である例へばみやまうすぎきょうには石灰岩が必要であります。そして土質等を化學的に研究すれば精密であるが、それ程の必要はない多くの高山植物には一般的の性質があるから普通には左程拘泥せず化學的よりも物理的に考ふるがよいのであります。礫石などはよくなくて高山に眞似て水の作用を受けられないものがよい。其周圍も従つて自然的にして其傾斜もあまり急にしない方がよい。岩の組み方も美的であり大きなものでなく半分ばかり地に埋め岩と岩との間に雨水が浸み込む様にし、其の岩の間へ植物の根をさし入れる様にするがよい例へばこまぐさなどは砂礫中に生へてゐる

から砂土の中に植る表面には砂利を敷くやうなこともあります。森林帯を移す事は普通の土に腐植土を混じて用ふるのがよいのであります。又植る位置も乾き易いものは南面を避けて北面に植る等個々の植物に就いてその生活状況に鑑みて植付ける事が必要であります。其他時に石垣を作つたり、煉瓦を築きあげたりして、その間隙に植付たり、播種したりすることもあります。盆栽としたものには、空氣と水分とを充分に與へるために素焼の鉢を用ゐて朝夕二回に灌水してやらねばなりません。栽培については先づ以上の通りであります。次に採集の仕方について述べますれば、すべて乾燥しない様にすることが肝要であります。それは、それは莖や葉の水分の蒸發を防ぐによい、水分を透さぬもので包むのがよろしい。それで登山の際には、油紙などを用意してそれで、包んで箱の中へ全体を寄せない様にに入れて來るのがよろしい。普通の植物を移植するやうに根鉢をつけて來る必要はありません。根鉢をつけたて來る必要もありません。完全に掘り取つて土をよく振り落とし、水苔をあて、油紙で包み、その上を麻繩で巻いて箱へ詰めれば、一杯入れたとて決して四五日乃至一週間位は枯れるものではありません。斯くして持ち歸つたならば、夕方涼しい時に植を付けるの



高山植物を研究するには應用科學の力に據らねばなりません。獨乙などでは其栽培の方法なども、餘程進歩して居る様子であります。

登山に就ての私の感想を述べますれば、第一精神の修養になる事が多大であります。偉大なる自然の美や、高潔な花の美に接する時は、所謂六根清淨して、心、神と一致するといふやうな気分になりますから、趣味としては極めて高尚で、學問としては應用の知識を進歩せしめ、其上困難を排して奮闘力を養成し、堅忍不拔の氣象を養ふことが出来ます。實に登山すると、平地に居つての想像、以外な困難に逢ふことがありまして、或時は一日位飯も喰べんことなどがありまして、自分の体力や意志の力の試練が出来ます。斯様な次第でありますから私は青年時代にはあまり健康でなかつたのでありますが、高山へ登ることを始めてからは、だん／＼健康を増して二十年來一日も病んだといふことはありません。誠にこれは登山の賜でありますから、諸君にも御勧めするやうな譯であります。甚だ纏らぬことを申し上げましたことを謝する次第であります。(完)

研究

果樹園設計書 (其ノ一)

緒論 晴耕雨讀生

本園は其地積十五万三千餘町歩ありと雖も其七割八分は林地を以て占められ其他民有原野として一割八分強農耕地に至りては僅かに三分強を占むるに過ぎず故に到底主穀農業或は蔬菜園藝業を以て一般の生業とする事はざる可明かなり然れ共其氣候及び土質たるや極めて果樹栽培に適せるを以て此未耕地原野の一部を有利なる此業の開發に宛て以て天與の好適地を利用せば民福を増進することを蓋し少なからざるべし想ふに本園の地は其氣候南北一様ならずと雖も概ね北半は寒冷なるを以て現今其病害極めて少なく又其肉質緻密なる良果を得る事所々に産する例を見ても明らかなり又南部の地は概ね氣候温暖なるも葡萄或は柿等の栽培の如き尤も適すべし然して亦土質より見るも本園は北部は秩文古世層の礫質土壤を以て被はる又南半は果樹栽培上尤も有望を以て目ざる、花崗岩風化土壤たり亦所々に火山灰(御嶽山を中心とし)の礫地あるも却つて本縣三岡村の桃栽培の好適地と稱せらるゝに比すれば之れ亦桃栽培の有望たる事疑なからん加之其地勢概ね傾斜

| 種別 | 平均温度    | 最高温度 | 最低温度     |
|----|---------|------|----------|
| 一月 | (-) 一、五 | 八、五  | (-) 一七、五 |
| 二月 | 一、三     | 一五、五 | (-) 一七、三 |
| 三月 | 四、二     | 一八、八 | (-) 一七、三 |
| 四月 | 九、三     | 二五、五 | (-) 一七、五 |

大正元年の各月温度表

地にして果樹栽培の必要條件たる排水の良好なるを見久しく古人交通の怨府たりし中仙道も今や鐵道開通を見るに至り之れによりて販路を擴大せば蓋し果樹栽培の業前途甚だ有望なりと云ふべし

故に本校に於て新校舍移轉と同時に之れが設計を思ひ立ち先づ本校地方の氣候經濟等同様なる果樹園を視察調査し之れを参考に供し御即位式紀念事業の一端とし摸範的果樹園を創設して當地方果樹栽培業者の指南車となり以て其範を垂れんとするにあり

第一 果樹園地調査

一、位置  
本果樹園は長野縣西筑摩郡新開村大字杭の原にあり福嶋町を距る北東數町飛彈街道に接す

二、氣候  
本果樹園は高度約二千五百尺の位置にあり温帯北部の氣候に相當し七八月の候暑氣最も高く冬季一、二月の頃最も寒氣強し今年内の氣温、降水量風向及び天氣日數霜雪期を表示すれば左の如し

| 月    | 一月       | 二月       | 三月       | 四月       | 五月       | 六月       | 七月       | 八月       | 九月       | 十月       | 十一月      | 十二月      |
|------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 最高温度 | 八、五      | 一五、五     | 一八、八     | 二五、五     | 二五、三     | 二五、八     | 三〇、二     | 三一、六     | 二九、五     | 二五、三     | 一七、八     | 七、八      |
| 最低温度 | (-) 一七、五 | (-) 一七、三 | (-) 一七、三 | (-) 一七、三 | (-) 一七、三 | (-) 一七、三 | (-) 一七、三 | (-) 一七、三 | (-) 一七、三 | (-) 一七、三 | (-) 一七、三 | (-) 一七、三 |

備考 毎日午前十時の観測にして温度は攝氏なり

| 量  | 風向 | 天候     | 日照 | 霜 | 雪 | 期  |
|----|----|--------|----|---|---|----|
| 八五 | 北風 | 晴天曇天雨天 | 五〇 | 五 | 五 | 四月 |

右表の如く當地の氣候は果樹栽培上甚だ有望なるを知るべし唯注意を要するは風害にして木曾川沿岸より吹き送る南西風は山脈の影響を受け本園に於ては北風となり往々意外の強風をなすとなり農期は毎年四月上旬に始まり十一月下旬に終る

三、形状及び地勢  
本園は東西十五間南北二十四間の距形をなし北東部最も高く漸次南西に向つて約十度計の緩傾斜をなし排水甚だ良好なり

四、面積  
本園は總面積一反二畝歩にして其内約半畝は不用元槽地あり

五、地味及び地層  
本園は秩父古世層の石英岩を多く含める

第三期火山灰土にして今日より約八十年前以前前山の崩壊押し出をなして生ずるものなり表土數寸は稍黒色を帯べる風化土なるも下層は厚く赤褐色を帯べる礫を交ゆる礫確の地たり

六、沿革  
本園は従米民有地にして明治四十二年本校敷地と指定せられ縣に買上げられ本校所屬となれり以前桑園を設けたりしも殆んど敷地同様の荒廢をなせり

第二 園地附近調査

本園の概況上記の如く自然的經濟的位置共に宜しきも地味甚だ瘠惡なるを以て此地に適せる果樹の種類及び近傍地の過去の經驗を調査せんとし先づ新開村渡合江口氏の桃園を視察し夫れより摸範的果樹園と稱せらる、隣郡八幡原農園及び二三の地の其生産状態を調査せり

一、本校既設果樹園に於ける調査

本園の西隣接地にして地味其他總ての條件全く同一なり昨春舊校舍果樹園より移植せるものにして苹果梨子桃の三種を植栽せり其面積約四十坪あり何れも其樹齡八年に達せり舊校舍果樹園は地味肥沃にして排水良好ならず又適度の密植をなせるを以て苹果梨子の如きは殆んど結果を見るに至らざりしが當園に移植後密植を避け剪定施肥等に最も注意せる結果其多くは最も良く開花するに至れり唯桃は樹勢恢復充分ならざりし

爲め其開花不良に終れり要するに之れ蓋し陽光照射空氣の流通宜しく排水良好なる地に移植し合理的施肥剪定法を行ひし結果に他ならずと信す

二、新開村渡合江口氏桃園調査  
當園は本校を去る西方一里餘の地にして黒川の上流にあり之れを爽みて二ヶ所に分れ其一は植栽後六年位を経過し盛に結果しつゝあり他は新設開墾植栽せるものにして其面積町餘あるも未結果なるを以て調査を異せり故に前述の果園のみ調査せり

一、地勢及地味

當園は南面せる約十度位の傾斜地にして其面積約二畝歩ばかりにして氣候地味殆んど本校果樹園と同様なり

二、栽培法及現況

栽培距離甚だ近く現今七年生なるも各樹枝互に交錯し下枝枯損し居るもの多し肥料としては多くは既記の如きものを用ひ居れり其剪定整枝法は主枝及び結果枝過度に伸長剪定せる爲め下枝枯損せるもの多く結果枝次第に枝の先端に移り主枝を遠かり結果を不良ならしむる傾向あり然れ共昨年於て既に四十餘圓の收量を獲たりと云ふ此かる栽培法に於て又斯かる礫確なる地に於て以上の收益を得たるは蓋し當地方の桃栽培に適せること推して知るべきなり

三、八幡原農園に於ける調査



一、位置及地勢
本園は東筑摩郡廣丘村八幡原にあり園主
太和壽夫氏の經營に拘はる松本市の南方
二里村井驛を去る六町の地にあり奈良井
の小流に沿へる平坦地にして園りに赤松
平地林あり稍防風の用をなす

二、氣候及土質
氣候は畧當地方と同じく七八月の氣温尤
も高く攝氏二七度三に昇り冬期は一、二
月頃最も寒く零下一〇―一五度に降り晩
霜五月中旬初霜十月初旬に来たるをあり
又雨量の多きは七、八月なり又土質は大
に異なり地質學上新世紀洪積層に屬する
赤色粘質壤土にして表土甚だ深く地味割
合に肥沃なるも以上の土質なるを以て排
水良好ならず

三、栽培果樹の種類及び品種
當園に栽培せる果樹の種類は桃梨を最多
とし葡萄苹果栗櫻桃等にして就中梨は
尤も收益多く桃葡萄之れに次ぎ苹果も稍
可なるも栗櫻桃は其成績見るべきものな
し今各種の果樹に付き當園に於て有望と
認むる品種を擧ぐれば次の如し

イ、葡萄
概ね米國種なり『ブライイトン』『ムアースダ
イヤモンド』『ハーバート』『ゴソコード』等
最も成績良好なり其他『レディワシントン』
等は其味優良豊産なるも樹勢弱く栽培稍困
難なりと云ふ其他『カールマン』『スカート

オーター』等あるも其成績前者の比にあら
ず
ロ、梨
多くは和種にして早生赤令村秋泰平等最も
豊産にして其他長十郎獨乙重次郎等あるも
其成績前者の比にあらす洋種として『パー
レット』宜しと云ふ

ハ、桃
『アムスデンビューン』『アローリーパー』天
津水蜜桃上海水蜜桃等有望種なりと云ふ
ニ、苹果
紅魁祝紅主國光等にして就中紅玉最も豊産
なり倭錦は其成績甚だ不良なりと云ふ

ホ、栗
普通小栗の方成績稍見るべきものあれども
丹波栗の如き大栗は面白からずと云ふ
ヘ、櫻桃
其栽培面積已少なり其結果甚だ不良なり
ト、莓
『ビクトルモレーン』『ビクトリア』等數種あ
り一部棚作の下に利用栽培せるものあるも
露地に栽培せるものに比すれば品質甚だ劣
等なりと云ふ

四、栽培法
栽培法に各果樹の種類により一様ならず今
其整枝法植栽距離主なる當園被害の病氣虫
類を栽培表を以て示さん

Table with columns: 種類, 整枝法, 栽培距離, 病虫害. Rows include 葡萄, 梨, 苹果, 桃, 栗, 櫻桃, 高木作, 二間, 二間.

甲州竹の今昔

甲州も昔から随分竹林があつた、維新以後
順次亂伐せしものと、數度の水害にかゝり
御承知の笛吹、荒川及釜無、等の流域が一
大砂丘と化し、山林原野何れを問はず、荒
廢に荒廢を重ね、砂漠國となりし今日なれ
ば、之れが復舊に官民俱に腦殺され、一兩
年來徐々として、元に復せられつゝ、あり、
從而竹林も亦相當の施設と、保護獎勵を急
務とするものにして、具体的精案を開か
ざれども、實行するに至らんか、數年なら
ずして、昔以上の竹林美を現出することゝ

同 舊坑庄(同) 上二十錢
同 三層正(同) 上二十錢
新竹摩二亭埔庄(同) 上十七錢
臺中摩臺中街(同) 上二十錢
之に依りて見る時は地方によりて價格に
高低ありて一定せずと雖も平均十九錢位と
見て差支なかるべし
以上の如く相場の変動は常に免かれざる處
にして且材料不充分なりと雖現今の場合に
於て之を精査するの餘地なきか故に差當り
前記の山元附近の價格を標準として金員收
額表を調製すれば

Table with columns: 年, 一等地, 二等地, 三等地, 總額. Rows include 三年, 五年, 七年, 九年, 十一年, 十三年, 十五年.

備考
(1)、總積は一尺の重量を六百斤とし一
町歩當り總材積に乘して算出せり(但
普通の賣買には枝條を加へて其全了を
以てするが故に幹材積に枝條材積を加
へて總材積となせり)

第十一表 金員收額表
(2)、薪材は百斤を十九錢とし一町歩に對
する總額を算出せり
(3)、金員收積に於ては一般に價格のみを
記入して總積を掲げんと雖も價格の
變動ある場合には總積に單價を乗つて
直に之に射する總額を求め得る便宜あ
り依て特に爰に記せり
(4)、金員收額は材料不充分なるが故に不
備の點多し
(5)、收額は粗收入の義なり

山林學校便り

年中行事の最大たる修學旅行も終を告
げ歸來この方生徒各自心に落着を生じ致々
勉學に餘念も無之候時節柄鬱陶しき梅雨期
を控へて不快の感なきにはあらず候へ共輕
暖體に適し書齋に籠居して書を繕くにはふ
さはしき折に候況して四圍の青巒益々碧を
凝して書窓を壓し黃鸝と杜鵑と交々啼きて
人間の悶を慰むるをや如是觀すれば梅雨期
も亦一好時期には候はずや
五月廿八日には午後一時より講堂に於て
先達照憲皇太后御大葬儀參列の爲上京せし
校長の奉拜談あり六千萬民の悲を集めし當
夜を語りては一同今更に畏きに泣くより外
は無之候ひき

五月廿九日は河野上伊那農學校長東海道
方面學校視察の歸途立寄られ高山植物につ
いて一場の講話を試みられ候本校にも高山
園設計の折柄大に有益に且つ趣味津津たる
もの有之候同講演の大意は本誌に掲載致置
候
六月十六日には福嶋小學校に於て豊橋聯
隊長兩角大佐の軍事講演有之職員生徒一同
聽講せり
六月十七日は白上本縣學務課長の來校を
機とし一場の訓話を請ひ更に引續きて飯田
聯隊司令官村手中佐の臨檢を仰ぎ奉天戰闘
の大略を聽聞致候當日は講演の當り日にて
多大の興趣と感動とを與へられ候

校友會記事

部長會 本年度豫算につきて五月三十日
午後より校友會各部役員參集して各顧問と
ともに本年度事業並に之が經費に關して研
究討議をなし、その大綱を決定す、六時に
垂んとせる頃閉會せり
總會 六月六日午前八時より講堂に於て
本會總會を開き曩に部長會にて決定せし本
年度豫算を提出し議定せんとせり議事に先
ちて會長は、戌申詔書を捧讀せらるゝ、られ
より安藤會長を議長に推薦して議事に入り
ぬ向つて左側には各顧問右側には各役員正
面には本年度豫算と前年度決算報告の大書



**六月六日校友會講演會記事**  
 六月十六日雜報子記  
 以上の通り任命他部役員には移動なし

同 田邊善右衛門  
 同 今川真二  
 同 新築 教諭  
 同 都竹武次郎  
 同 丸山 岩吉

△獨逸軍艦と鞍馬艦 同 田中 泰吉君  
 △甲州まで 二年 川田勇次郎君  
 △身延山と定額山 二年 長谷部久雄君  
 △都會と農業 一年 藤原 幾喜君  
 △時間 一年 長坂 清人君  
 △庭球部に告ぐ 二年 矢嶋 武六君  
 △山と水 三年 都竹武次郎君  
 △生存競争 一年 上島伊五郎君  
 △すりー 二年 坂本光太郎君  
 △子供の天国 一年 山下不二三君  
 △木曾の四季 三年 丸山 岩吉君  
 △東京の感想 七宮 副會長  
 △日蓮上人と日郎上人 北村 顧問  
 △上京土産 新築 顧問  
 後から後からと土産袋は容易につきぬ。盡きたものは時間がかり最う日が山に入つてしまふ十五夜の月が出るまでと思つたがうらな悠長なこと云つて居られない又来る時を思ひ乍ら安藤會長の大正博覧會土産竹の編草履の柏子木がちゃん／＼と／＼となる都竹副部長の閉會の辭でびしやりと幕が下りた。正面の卓上に會長の土産、竹の便所用草履と臺灣産蔴竹の蓑入が微笑んで出て行く健

せらるを擁して議長あり、相對して議員たるべき百五十の少壯論者控へたりかく議場の陣立整ふを見るや議長は議事に入るを宣し先づ各役員より各部豫算の内容に付説明をなし、次で各部の事業及豫算内容に關する十數の質問あり之に對する役員の解答あり議場は漸く辯舌の花を開き、かくて豫算額の議定に入る中途体育部に至りて甲部を減じて乙部に増資せんとするあり、役員の縷々陳じて難するあり、茲に到つてか議場漸く騒然たらんとす、議長はこれが整理に勉めて止まざりしにより逐次明快なる議論に入りしも一時は論難の殺氣場に陥れるを覺ゆ十一時に到り議定終了讀上げし豫算額は別記の如し、それより協議事項に入る議題及議決次の如し

一校友會研究部を廢して新に雜誌及辯論部を設けて事業の發展を期せんとす  
 決議、多數賛成にて原案を可決しぬ、同時に校友會の該件に關する會則の改正及従來の研究部を本日解散し且つ新設の雜誌部及辯論部の事業を開始し之に要する役員は顧問會の推薦に一任すことを決議せり

○大正貳年度會費收支決算  
 入金四百四拾四圓參拾七錢五厘也  
 外未納入金貳拾八圓也  
 一金參百七拾五圓五拾參錢六厘也

總 收 入  
 支 出

差引金六拾八圓八拾三錢九厘  
 殘 額  
 翌年度へ繰越高

内 譯  
 外未納入金貳拾八圓也

收入之部  
 一金七拾貳圓參拾五錢五厘 前年より越高  
 一金參百參拾五圓二十錢 在校會員會費  
 一金參拾圓七十三錢 卒業生會員會費  
 一金六圓九錢 預金利息  
 支出之部  
 八拾貳圓四十錢  
 一金百參拾九圓貳拾八錢五厘 研究部費  
 一金四拾五圓七拾參錢壹厘 庭球部費  
 一金四拾參圓六拾七錢 擊劍部費  
 一金貳拾壹圓五拾六錢 弓術部費  
 一金九圓八拾九錢 遠足部費  
 一金參拾參圓 撰手補助費

以上  
 ○大正參年度本會豫算  
 豫算總額四百七拾圓也  
 一金壹百貳拾圓 研究部  
 一金六拾貳圓 庶務部  
 一金參拾八圓 庭球部  
 一金貳拾圓 擊劍部  
 一金拾圓 弓術部  
 豫備費

以上前項の決算額に比し増加せる各部の新事業中主なるものを擧ぐれば研究部に於ては林友の紙面の改良、隨時頁數の増加及辯論部の擴張、擊劍部にては武具の購入、設部の擴張、弓術部にては矢場の新設、遠足部にては土俵の設置、兎狩紅葉狩其他の發展等なり(同日午後講演會別項記載)

○各部委員任命 各部の役員と協力して其事業を擧ぐる爲左記の委員を任命せり  
 △雜誌部 黒崎洋治 中村五郎 千村萬三  
 矢島武六 百瀬三一 加藤源一郎  
 柘植五郎 小澤 武 岩田 元吉  
 長坂清八 伊藤幾太郎  
 △庶務部 水 上 壯三 澤田 富可  
 川口勇次郎 竹村 節三  
 △擊劍部 長崎千萬一 恩田司馬之介  
 加茂憲太郎 長谷部久雄  
 △庭球部 坂本光太郎 原 正 造  
 千田 政美 肥田 儀兵衛  
 △弓術部 早川 一雄 中 田 穰  
 下平 佐門 熊谷 清逸  
 千村彌之助  
 △遠足部 池野萬次郎 柳澤 止之進  
 古畑 秋藏 梅村 計介  
 森次 潔 宮川 昌平

○役員任命 曩に總會に於て決議せしところに據り本會に雜誌部及辯論部を新設せしと同時に左之通り役員の任命ありき  
 △辯論部顧問 七宮 教諭

見を送つてゐた。(六月六日校友會にて信天翁生記)

優しき娘狼になる指の先  
 うへ校正は重しといふらん  
 落ちおれて袖に涙のかゝるとき  
 人の心の奥が知らるゝ

と、何等の感動をも引き起さず看過すれば佛何でもなきことなるべく候へ共、僕の如き三十有餘日を病牀に送れる身には此の歌の意を幾分か飮味せし心地せられ候。蓋し安臥消日の間に於て第一の慰藉者たりしは知人の來訪に有之候、偶々嬉しさの餘り發熱せし事も有之候ひしも尙御後の半生中は此の時の氣持は忘れ難く候。而して更に喜ばしき一事を大聲以て廣く告ぐるの光榮を有し候

曰く同窓生の温情之れなりて候。心よりの見舞は實に萬金以て換へ難く候。余は始めて同窓生の眞に掬すべき情緒の互に漲れるを發見せし心地致し申し候。實に云ひ得ぬ難有味を感ず申候。

總て悲境にある者に眞の同情を寄するは崇

誓程一千日 (四)



高なる品性の陶冶に俟つべく吾人は努めて此種の修養を積み度きものに有之候。茲に御見舞を辱ふせる各位並びに同窓生諸君に謹んで感謝の意を表し候。

頃日鳥取縣西伯郡へ轉せられし武久君の來信に接し舊同志會員(本會は余等在校中校中寄宿生にして自稱豪傑連を以て組織し校風刷新を標榜して立てる正義の結合なりしが如何なる理由か、斯かる高士連も校長先生始め他の諸先生にも一向すかれず同輩よりは食ひはぐれ壯士なる代名詞を用ひられて敬遠主義を取られ、概して評判宜しからずアタラ二十餘名の志士も握り拳の納め處に困却せし悲惨の一族を引き具して悪まれの代表者たりしは斯く申す拙者と御承知被下度未知の各位へ披露致し置候、呵阿)たりし同君遠藤治一郎君鶴岡政義君並に一時會員たりし温井誠一君計られずも近接せし由を報せられ轉た懐舊の念抑へ難く茲に余は年來期せし林友誌上に於ける多數諸君の消息を窺ふべき企劃は空想に終りたればせめても吾々同志會員、南は沖繩の園原君北は北鮮の林君、青森の小藤君、在米の平澤君を始め内地各方面の情報(日常生活の間に於ける平凡の)を誌上に交換致し度く敢て御賛成を乞ふ次第に候。希くは我敬愛せる諸君我意の存する處を酌まれ誌上一段の光徑を添えられん事を。

今十五日余は新潟縣廳内にて巾利きと云

ふ評判ある宇佐美君よりの一書を手を致し候處書中一般諸君へも告ぐるを奉る當然とする節々有之候に付き左に短評を附し抄出致し置候。

相變らず兄には隨在と思ひきや頃日手にせる林友に依つて病床に呻吟せらるるを御同情に堪ない、才子多病の部類にや熱血の兄!!勇往の兄!!今少し世の中を茶化する氣分を含んでは如何、折角御快愈を祈る(會曰誠に感謝に耐えない御蔭でもう程もなく山川を踏破し得るに至つた幸に御安心あれ博覽會へ縣の代表美人を引率して物議を惹起したとか古關君から聞いて居つた、兄の男振りからして若い血の彩を持つ兄として當然其の噂は起り得る事だと思ふ、三月一寸博覽會をのぞいた時にも信州美人が異彩を放つて居つた様な氣がした(會曰、君もソウ思つて呉れたか感謝々々例令猫の尻尾でも信州物がよかつたと云はれ、は氣持が違ふよ)竹材に付て兄は大いに急速的に趣味を喚起せられた如く安藤校長に大々私淑せる様子は結構だが當の大關、佐渡ヶ島の御見物はどうです、自慢ではないが自然的大美林が南海岸十餘里に連互して居る來年度からは竹の模範林を造る見込みだ(會曰、やあ誠に鼻息の荒い御事何れ御指導を願ふべし)今年の夏休みには何か御企劃はないですか(會曰何か名案あらば授けられよ大多

數に共通なる)そうして本年から全邦各地に散在する會員から必ず一回境遇と感想の略報を徴して紀念努力號を發刊してはどんなものですか、加茂の團結力の強いには驚く、そうして毎號何か意志發表か詩想の練習かをして居る吾々も大きな問題を拉し來つて各自意見の發表もよからうと思ふ(會曰、同感々々僕も會門出の結合刀の乏しいのを慨嘆に耐へなく思つて居る、エタイの知れない女を二三軒隣の下宿屋へ引張り込んでふざけて居ながら目と鼻の間に呻吟する同窓の情を見舞はぬ人がある位だもの、ううして會報も何とかして會員が全文字へ目を通すようにしたい)

安藤校長へも宜しく御傳へ被下度尙再び兄の健脚の人として北信の天地を驚かすの一日も早からんことを祈る(會曰、傳言すべし僕も不遠立派な山男になつて御目にかけてべく候)(六月十五日)

文苑 史都めぐり

三年 翠村 漁郎 旅行記の一節 雄渾なる濤聲に送られ、無限の流瀆に酔ひつゝ七里ヶ濱の白沙を後にす。極樂寺坂の山、海べに切り落されて巉巖々々たるも

のは稻村ヶ崎とす、元弘の昔新田左中將が金装の太刀龍王に獻げしに、潮忽ちひき干潟より亂れ入りて、遂に九代の覇を覆へせし處と傳ふ、岬頭に立ちて南西の潮風に嘯ば來し方もゆかむ方もみな明なり、江の嶋七里ヶ濱鎌倉返子との一帯歴々として指顧すべし、長汀曲浦の双美を寸眸に集むるのみか相豆の山々遠く背後の左右に連るありて新緑目醒むる許りなり、空曇れりと雖も日光雲の破間より雨の如く灑ぎ來り、江之島の翠巒更に拭ひたるが如し。

極樂寺はさきやかなる堂宇也、切通せる坂を下れば、はや茲は鎌倉の地也、先づ長谷に到り觀音を拜す、大木造の佛の立像あり寺僧の諸説の説明更に把持する處なし、唯知る高二丈と五寸、千二百年前の作たるをのみ、石階を下りて左すれば、高三丈八尺周圍十六間二尺青銅なる彌陀の座像あり、建長時代の作にして工作優秀世界に名ありと、我々の尊貌を仰ぎて思ひぬ、南都の大佛はその貌いたく劣れり、譬へは小兒の駄々こぬるが如き面持あり然るにこの尊貌はさるにあらすして、大慈大悲の大徳を具へ給ふの面相ありと、世の佛師たるもの必ずや一度は仰ぐべきものなれ、綠濃やかなる新樹を背景として恬然立ちたまふ大佛は、枯野の末に立ててすてられし野佛に異ならざるか、夕月に額の半ばを照らされ給ふ大佛

は古庵の川邊に古りたる石地蔵に藏ならざるかの思を起しぬ、されど七百年の春秋流れて水の如き過古、雪月花、幾百度の眺め彼の大佛は點々として史都の治乱興亡を見たまひしならむ、も何人が建立せしぞや、必ずや史都千年の鎮護をされたまへとの祈願になりしや明けし、大佛は語るなく温容人に逼り懷古の情の湧くが如きもの切なるのみ。

道をかへして少時、若宮小路に出づ、小路は由比ヶ濱より鶴岡に到る一直路にして今も古も鎌倉の大通り也、三代の昔九代の時、關東武者がいかになを歩きけむ、左右に亭々たる松樹幾町ともなく並べり、八幡の大華表、大樓閣手裡に見へてしかも容易に達せず、道の兩側は源北時代の舊蹟窮跡なり、やがて社頭に詣る、社務所前に掲げし鎌倉古圖を按ずれば、我らの立てる地はこれ和田第跡なりと、永保の昔偲ばれ、合戦の閑聲や今いづこ。拜殿の後ろ石階を攀すれば社殿也、康平六年頼義京都石清水より勸請し由比ヶ濱に祀りしもの、後に頼朝開府とともに此地に遷せるなり、八幡は源氏の神なれば關東にては所在に之ありと。俚人の御使ものと稱する鳩は、堂上塔下に喉を鳴らして、群れ遊べり、稗を買ひて與ふれば嬉々として集るなり、纖弱なる手振にて靜御前が舞ひしは何處の廻樓廊なるか昔を今になすよしもなきとは、我らの身に

も亦同じ歎也、石階の左に大銀杏あり、別當公曉の白及暗中に一下して、薄命將軍の命ぞ絶ちし處となん、老杏何物をも示すなし「山は裂け海はあせなん」と或は「大海の磯もどろろ」と、詠せしもの、かの金槐の一卷や、格調雄健、洵に當代の卓品、彼を薄命として哭くものは、來りて國文學史上の永しへに生くる彼實朝を想はずんば非也社より右すれば鎌倉師範學校あり、往昔の幕府跡なりと、此校に學ぶものや史を閲して幕政にいたるあらば、その感慨やいかならむ、一樹一木すら青史の遺物ならざるなく、一草一花にも悲劇の片影をとらむるの地、偶々遊覽の吾らすら低徊去り難きものあり、況んや晨夕これに親しむの兄等に於てをや、史的情緒の綿々として、中心泣くもの豈吾のみならんや。

東すること少頃にして、一帶の畑地はこれ頼朝の館跡と、見よ壯圖はかの空の如くにして、麥徒らに秀で、一陣の野風これを訪るゝに委するのみ 其北 小山の中腹に頼朝の墓あり、古りたる五層の石塔也、法號はさだかな法らねど武皇嘯原大禪門と、小暗きまでに老樹覆ひかゝり、焉ほしいまゝに生へり「草も木も靡さし秋の霜きて、空き苔をばらふ「松風」と長明の讀みけん、海内に總追捕使として秋霜烈日の威重かりしもの、死して墓の墓石のみ、千載の下誰かも今昔の感な



からむや、長明の歌よく這般の機微に觸れ  
たるものと謂つべし。徒手天下を握りし豊  
公の伴侶、武斷政治の雄圖、今尙後人をし  
て、仰がしむるもの少しとせず、地下の巨  
頭公や、うれ暝して可也

七百年の風慘雨虐に、文字さへ蝕盡せら  
れし墳墓よ、汝に何の憂愁かあらむ、汝に  
何の悲哀かあらむ、青苔永しへに之を護り  
暮鳥獨り啼き、有情の行人時に來りて之を  
哭しはた吊するあるのみ。以下次號

和歌

嵐山にて (大正三年四月六日)

福島 安井 正 夫

嵐山あらしはなきて長閑けさの限知られぬ  
花ざかりかな  
世にたぐひあらじと思ふ嵐山松の木のみ  
の花の白雪  
立ちならぶ松の木のまに咲き出で、たぐひ  
あらしの山櫻花  
天の橋立にて

漕ぎいだす舟より遠く見渡せば雲井にかゝ  
る天の橋立  
吉野山にて (おなじく四月十三日)

雲と見え雪とも見わたみよしの山は櫻  
の盛なりけり  
散るものあれば盛りもありて咲きむる花  
も見わけりみよしの山

吉野山花のみならで杉檜松もさかりの處な  
りけり

感じと報せ

一年 平田 晩村

月の夜に通ふ舟子や謳ふらむ追分節の面白  
き哉  
壞れたる岩の裂目の赤土に草生ひてあり青  
さが悲し  
夜更けていづこか泣ける乳呑子の聲のみ覺  
めし新開の里  
ふとして母よりうけし我性の弱きを思ひ  
泣く時もあり  
土踏めば草履のしめる心地さへ嬉しき夏の  
シーズンは來ぬ  
岐蘇の地は森より森へ旅人の行く姿見て夏  
を知るなり  
イタリイの夕とパリの夜の街とスイツアラ  
ンドは晝を行きたし  
何事も知れるが如し何事も知らざる如し初  
夏のくも  
見しはなほくもとはりぬと思ふまに小雨な  
りきぬ岐蘇の山里

雑報

會員消息

○赤岩藤太郎君。今回、松館と改姓せらる

○戸田續君は五月より盛岡小林區署に轉任  
○今井安男君。今回東京大林區署管内太田  
原小林區署に就職  
○中垣榮一君。同上矢板小林區署に就職  
○高橋博君は先月より病魔に犯され臥褥靜  
養中なるが昨今頗る快氣に向はれたり切  
に恢復の期早からん事を祈る  
安井書記退職慰勞金申込報告

金貳圓  
金四拾錢  
金壹圓  
金五拾錢  
金五拾錢  
金五拾錢  
小計五圓四拾錢  
林教諭退職慰勞金申込報告

金壹圓  
金壹圓  
金壹圓  
金壹圓  
金壹圓  
金壹圓  
金壹圓  
金壹圓  
小計八圓六拾錢  
川崎助手退職慰勞金申込報告

金參拾錢  
金五拾錢  
小計壹圓參拾錢  
下畑徳十君弔慰金申込報告

金五拾錢  
累計七圓  
雜誌費領收報告

金壹圓  
金參拾六錢  
金五拾錢  
金壹圓  
坪倉 藤三郎君  
新田 忠次郎君  
長谷川 義雄君

小池 金三郎君  
坪倉 藤三郎君  
新田 忠次郎君  
松館 藤太郎君  
野知里 慶助君  
細江 七兵衛君  
遠山 義雄君  
吉田 佐十郎君

藤巻 壽一君  
松館 藤太郎君  
細江 七兵衛君

小池 金三郎君  
坪倉 藤三郎君  
新田 忠次郎君  
松館 藤太郎君  
野知里 慶助君  
細江 七兵衛君  
遠山 義雄君  
吉田 佐十郎君

小池 金三郎君  
坪倉 藤三郎君  
新田 忠次郎君  
松館 藤太郎君  
野知里 慶助君  
細江 七兵衛君  
遠山 義雄君  
吉田 佐十郎君

小池 金三郎君  
坪倉 藤三郎君  
新田 忠次郎君  
松館 藤太郎君  
野知里 慶助君  
細江 七兵衛君  
遠山 義雄君  
吉田 佐十郎君

小池 金三郎君  
坪倉 藤三郎君  
新田 忠次郎君  
松館 藤太郎君  
野知里 慶助君  
細江 七兵衛君  
遠山 義雄君  
吉田 佐十郎君